

発行所

札幌市北区北15条西7丁目
北大医学部同窓会
TEL&FAX (011) 706-5007
E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp
https://hokudai-med-dousou.com

編集人 矢部 一郎
発行人 浅香 正博



CONTENTS

- (1) 医学部長就任の御挨拶...田中 伸哉
(2) 令和6年度総会報告...第101期生卒業生歓迎会
(3) 卒業生に贈る言葉...畠山 鎮次
(4) 第101期生名簿...河内 駿平
(5) 教授退任のご挨拶...山本 有平
(6) 山本 有平 渡辺 雅彦
(7) 教授就任のご挨拶...遠藤 知之
(8) 令和6年度 医学研究院・大学院医学院
(9) 医学部医学科各賞受賞者
(10) 後藤 雄一 今野 哲 矢口 裕章 小池 良直
(11) 鈴木 智亮
(12) Zoomアップ...渡邊 裕司
(13) 北海道医学会からお知らせ
(14) 過年度会費が2年を超える会費未納者...



記念樹「ユリノキ」

ひさむら まさや
久村 正也 (42期)



医学部長就任の御挨拶

医学研究院長・医学部長
田中 伸哉 (66期)

この度、医学研究院長、医学部長を
拝命致しました腫瘍病理学教室・病理
診断科の田中伸哉です。私は1990年(平
成2年)本学卒業で66期です。卒後は病
理学第2講座の長嶋和郎教授の門を叩
き、病理学、癌研究の道を進んで参り
ました。留学ではロックフェラー大学
の花房秀三郎博士に師事しました。大
学院で取り組んだがんのシグナル伝達
研究は現在のがんゲノム医療へと発展
しており、研究が医療へ繋がる現場を
体験することで、若手医師の研究の重
要性を強く認識しています。病理医と
しては脳腫瘍の病理診断が専門です。
分子診断が急速に導入される医療最前
線の変化の速さを実感しています。研
究面では、北大の誇るノーベル賞の鈴木
章先生の伝統を継ぐ化学反応創成研究
拠点ICReDDの主任研究者として、融合
研究によるがん幹細胞研究に携わって参
りました。学部運営面では、副研究院長
として4年間、畠山鎮次前研究院長(66期)
の運営を学ばせていただきました。
北大医学部は現在一般入試枠は90名
(うちフロンティア入試枠5名)。2年目か
らは総合理系から10名と学士編入5名が
加わり105名が揃います。2021年には北
大医学部の教育制度は国際認証を獲得

し、現在ポリクリの一環として数週間
の海外実習も可能で、北大の理念であ
る国際性の涵養が実践されています。
病院の初期研修は定員36名と少な目です
が、後期研修医として若手医師が北大に
戻ってきます。令和7年度は132名でした。
北大医学部・北大病院・医学研究院が学
生や若手医師にとって益々魅力のある学
業・研修の場となるように教職員の皆様
と叡知を結集させていただきます。
現在、国内の大学を取り巻く環境も
大きく変化しており、医学・医療もAI・
ITCの導入を含めて大変革期の入り口と
認識しています。経済状況の激変と人
口減少の時代、荒波を乗り越えて北大
医学部が発展するようあらゆる方面
で尽力していきたいと思ひます。北大
医学部の根幹は、研究・教育・診療です。
北大医学部から最先端の研究成果、教育
成果、最先端医療を世界へ発信できる
ように、舵を取らせていただく所存です。
北大医学部の発展は、寶金清博総長(55
期)が率いる北海道大学の目指す、知を
深めるexcellence、社会と連携する
extensionに大きく貢献します。同窓会会
員の皆様、北大医学部に対してのご指導、
ご助言、ご支援をお願い致します。一緒
に医学部を盛り上げていきましょう！



病院長就任のご挨拶

北海道大学病院 病院長
南須原 康行 (64期)

2025年4月1日より病院長職を拝命い
たしましたので、ご挨拶申し上げます。
私は1963年に札幌市で生まれ、小学校
時代は砂川市で過ごし、中学校入学時
に札幌に引っ越し、札幌南高校を経て
一浪で北海道大学医学部に入学し1988
年に卒業しました(64期)。卒業後は直
ちに第一内科(現呼吸器内科)に入局し、
その後2年半の英国留学以外は北海道で
暮らしています。北海道愛は誰よりも
強いと自負しています。私が歴代病院
長と大きく異なることは、現在は所属
する診療科がないということだと思ひ
ます。2008年4月に呼吸器内科から医療
安全管理部の初代准教授・医師ゼネラ
ルリスクマネジャーに異動し、それか
ら17年間、患者さんに安心・安全な医
療の提供を行うために日々努力して参
りました。北海道大学病院は基本方針
の一つ目として「患者本位で安心・安
全な医療の提供」を掲げています。こ
れまでの医療安全管理部での経験を活
かし、より安心・安全な医療を提供す
る医療機関を目指していく所存です。
加えて、本院は北海道大学という教育・
研究機関の主要な一員です。そこに求
められるものは、医学生、看護学生な
どの教育および高度医療の提供と先進

的な医療の開発です。また、地域医療・
地域社会への貢献も当院の重要な役割
です。
北海道大学病院を含め、本邦の医療
機関は異常なまでの物価高騰、人件費
増大などにより未曾有の危機的経営状
況にあります。さらに、当院は老朽化
が進んでおり再開発が必要ですが、新
型コロナウイルスパンデミック、世界
情勢の変化(中東、ウクライナ)など
もあり、何度も見直しの議論を行って
います。また、人口動態、医療需要は
急速に変化しており、地域全体を考
えた医療機関の集約化や機能分化を真
剣に考えなければならない時期になっ
ていると思ひます。このような大変な
状況の中で、3年間北海道大学病院の舵
取りを担う重責に身の引き締まる思ひ
です。私の信条は「和と協調」です。病
院は多くの職種で成り立っていますが、
その中で最も必要なことは、お互いを
信頼しリスクを共有することです。北海
道大学病院の全職員が、そこに勤務す
ることに誇りをもてる環境づくりを目
指します。
同窓の先生方におかれましては、一
層のご支援とエールをいただけますよ
う、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和6年度総会報告・第101期生卒業生歓迎会

■令和6年度総会報告

令和6年度総会が、2月10日（月）午後6時00分より医学部百年記念館「多目的ホール」で開催されました。会議に先立ち、昨年の総会以降にご逝去された64名の会員のご冥福を祈り、黙祷が捧げられました。

総会は評議員会議長の政氏伸夫先生（65期）と副議長の橋本直樹先生（76期）の進行により行われ、最初に浅香正博同窓会長（48期）の挨拶があり、続いて議事録署名人として白井慎一先生（83期）及び長谷川祐太先生（88期）が指名されました。

協議事項では、1. 令和5年度会計収支決算として大西俊介会計理事（70期）から、収支決算状況について説明の後、審議了承されました。2. 令和5年度会計監査として山崎美和子監事（78期）から、会計処理は適切かつ正確に行われている旨説明の後、審議了承されました。

報告事項では、1. 令和6年度庶務・事業報告として笠原正典副会長（56期）から、会員数の推移、諸会議開催状況、経費支援を行っている医学部学友会事業の実施状況について、2. 令和6年度編集報告として矢部一郎編集理事（67期）から、同窓会新聞及び同窓会員名簿の編集・発行状況および今後の発行・発送方法について、3. 令和6年度会計収支中間報告として大西俊介会計理事から、収支状況に

ついて、4. 令和6年度フラテ研究奨励賞選考結果として渡邊雅彦選考委員会委員長（会員2）から、選考経緯及び選考結果についてそれぞれ報告されました。

総会終了後に、令和6年度フラテ研究奨励賞授賞式が渡邊委員長の司会により執り行われ、鈴木裕貴氏（86期）の代理人福島太朗氏、長谷川祐太氏（88期）、千葉雅尋氏（90期）の代理人藤井文彬氏、土田拓見氏（91期）、前田拓哉氏（91期）欠席の4名に浅香会長から表彰楯及び研究奨励金が授与され、お祝いと激励の言葉が述べられました。

■令和6年度北大医学部同窓会卒業生（第101期）歓迎会報告

総会に引き続き、午後7時より北海道大学医学部百年記念館1階にて、第101期卒業生の歓迎会が開催されました。国家試験を終えたばかりの6年生と同窓会員を含む52名が参加し、和やかな雰囲気の中、会が進行しました。

司会の近祐次郎先生（74期）の進行のもと、同窓会長の浅香正博先生（48期）の挨拶で会が始まりました。浅香先生からは、フラテ研究奨励賞に関する報告のほか、近年の同窓会誌への寄稿の話題、そして同期同士の交流を深めることの大切さについてのお話がありました。

続いて、医学研究院長の畠山鎮次先生（66期）より、北海道大学医学部卒

業生がこれまで在学生を支援してきた歴史についてのご紹介がありました。また、北海道大学開基150周年を控えるにあたり、今後は皆さんが後輩を支える立場として、母校とのつながりを大切にしてほしいとのメッセージが送られました。

次に、齋藤和雄先生（35期）による乾杯のご発声をいただき、開宴となりました。

最初のテーブルスピーチでは、北海道大学病院長の渥美達也先生（64期）より、病院の規模や在任中の経験についてのお話がありました。その中で、卒業後も誠実さと品格を大切に、社会の一員として責任ある行動を心がけることの重要性が強調されました。

会の進行に伴い、第101期卒業生を代表して川越幹洋さんより、国家試験終了の報告と謝辞が述べられました。川越さんは、卒後初期臨床研修ではなく大学院へ進学し、基礎研究に取り組む決意を表明し、研究を通じて北海道大学医学部に貢献したいとの抱負を語りました。

続いて、阿部弘先生（37期）より激励のお言葉をいただきました。阿部先生は、ご自身の経験を踏まえ、卒業直後は何もできないと感ずるかもしれないが、先輩医師やベテラン看護師に支えられながら謙虚に学んでいくことの大切さを説かれました。また、「楽な道と厳し

い道があれば、ぜひ厳しい道を選んでほしい」「世界へ視野を広げてほしい」との力強いメッセージが送られました。

さらに、西川秀司先生（60期）からは研修医時代の経験談、真部淳先生（61期）からは小児血液の道を志した経緯、政氏伸夫先生（65期）からは血液内科診療の実際や、救えなかった患者さんの経験を糧に今の医療が成り立っていることについてのお話があり、卒業後の研鑽に向けた示唆に富む内容となりました。

中村仁志夫先生（44期）による「アポトーシスの歌」の披露もあり、会場は一層の盛り上がりを見せました。

終盤には、フラテ研究奨励賞受賞者を代表し、土田拓見先生（90期）、長谷川祐太先生（88期）、千葉雅尋先生（90期・代読：藤井文彬先生）より、研究や受賞の経緯、後輩への励ましのメッセージが述べられました。

最後に、武蔵学先生（51期）より閉会の挨拶があり、ご自身の研究・臨床経験に触れつつ、第101期卒業生の皆さんに「諦めずに職業人生を歩んでほしい」との激励の言葉が送られました。

締めくくりとして、参加者全員が輪になり、押野智博先生（90期）の前口上のもと、恒例の「都ぞ弥生」を斉唱し、歓迎会は盛況のうちに幕を閉じました。

(83期 白井慎一)



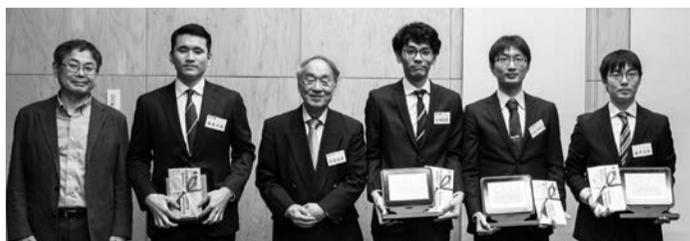
〈歓迎会挨拶〉浅香会長（48期） 〈挨拶〉畠山研究院長（66期） 〈スピーチ〉阿部弘先生（37期） 〈スピーチ〉渥美北大病院長（64期） 〈独唱〉中村仁志夫先生（44期） 〈スピーチ〉西川秀司先生（60期） 〈卒業生代表挨拶〉川越幹洋さん 〈閉会のご発声〉武蔵学先生（51期）



齋藤和雄先生（35期）による乾杯のご発声



〈進行役〉近祐次郎先生（74期）



浅香会長、渡邊選考委員長とフラテ賞受賞者



先輩と後輩の交流



参加者全員による都ぞ弥生斉唱

令和6年度総会資料

令和5年度 北海道大学医学部同窓会 会計収支決算書

＜収入(円)＞ 令和6年3月31日

項目	予算額	決算額	差額
【会費収入】	21,000,000	18,965,000	△ 2,035,000
コンビニ収納		13,760,000	
口座引落		767,000	
銀行振込		1,843,000	
郵便振替		2,595,000	
【事業関連収入】	170,000	335,000	165,000
広告収入	170,000	335,000	165,000
【雑収入】	951,000	1,003,304	52,304
利息収入	1,000	90	△ 910
保険事務費	950,000	1,003,214	53,214
当年度収入額	22,121,000	20,303,304	△ 1,817,696
前年度繰越額	9,295,576	9,295,576	0
収入合計額	31,416,576	① 29,598,880	△ 1,817,696

＜支出(円)＞

項目	予算額	決算額	差額
【事業費】	13,055,000	11,824,744	△ 1,230,256
総会・第100期生歓迎会	1,000,000	714,510	△ 285,490
新聞・会誌印刷費	5,770,000	5,445,638	△ 324,362
刊行物送付費	2,210,000	2,621,362	△ 411,362
記念品費	550,000	630,590	80,590
大学支援助成費等	1,900,000	1,250,000	△ 650,000
ウェブサイト維持・更新費	150,000	166,320	16,320
研究助成費(フラテ費)	1,080,000	881,664	△ 198,336
学生表彰費(会長費)	160,000	114,660	△ 45,340
会員登録システム改修費	100,000	0	△ 100,000
寄附者感謝状(補)作成費	135,000	0	△ 135,000
【総務費】	10,480,000	10,136,625	△ 343,375
人件費	5,100,000	5,027,701	△ 72,299
諸保険事業主負担	850,000	743,000	△ 107,000
諸謝金	30,000	30,000	0
会議費	250,000	253,480	3,480
渉外費	50,000	3,624	△ 46,376
旅費交通費	150,000	104,477	△ 45,523
印刷費・会費請求書作成費	2,600,000	2,556,932	△ 43,068
通信費	330,000	297,331	△ 32,669
消耗品費	220,000	240,826	20,826
備品購入費	300,000	214,604	△ 85,396
振込手数料	600,000	664,650	64,650
【その他】	0	0	0
特別会計へ繰入	0	0	0
【予備費】	100,000	0	△ 100,000
当年度支出額	23,635,000	② 21,961,369	△ 1,673,631
収支差額(繰越額)	7,781,576	③ 7,637,511	△ 144,065

次年度繰越額 ①-②=③

令和5年度 北海道大学医学部同窓会 特別会計報告書

令和6年3月31日

銀行名	預金の種類	令和4年度(05.3.31)預金額 円	期間受入額 円	期間利息 円	令和5年度(06.3.31)預金額 円	備考
三菱UFJ信託銀行	定期預金	9,541,471	—	161	9,541,632	
三井住友信託銀行	定期預金	10,133,457	—	170	10,133,627	
北洋銀行	定期預金	12,250,778		171	12,250,949	
北洋銀行	普通預金	4,758,861		40	4,758,901	※寄附金受入口座
合計		36,684,567		542	36,685,109	

会計監査報告書

北海道大学医学部同窓会監事として、会則第10条第4項の規定に基づき、令和5年度会計収支決算状況の監査を実施した。監査の結果、出納簿及び関係書類の整備、並びに特別会計の預金等の会計処理は、適切かつ正確に行われているものと認めた。従って、令和5年度の北海道大学医学部同窓会の会計処理は、決算書のとおり正当であると認めるものである。

令和6年4月11日 監事 山崎 美和子
令和6年4月15日 監事 加畑 馨

北海道大学医学部同窓会
会長 浅香 正博 殿

卒業生に贈る言葉

北海道大学医学部長 島山 鎮次(66期)



101期の102名の皆さん、卒業おめでとうございます。北海道大学医学部医学科の課程を修了し、これから医師として活躍される皆さんの輝かしい門出を、本学の医学部教職員を代表して心からお祝い申し上げます。

北海道大学が掲げている教育理念のひとつに「全人教育」があります。全人とは「知識・感情・志の調和のとれた人」と理解されています。1876年に、北海道大学の前身である札幌農学校の

初代教頭ウィリアム・スミス・クラーク博士は、札幌農学校の開校祝辞で、「長年の間、東洋の国々を暗雲のごとく包んで来た因習と身分制度の暴政からの解放は、教育を受けようとする全ての学生達の胸に高邁なる大志を抱かさずにはおかない。」と述べました。クラーク博士はまた、細かな校則を廃止し、学生達の自律心と独立心を目覚めさせることで個の確立を促し、北大の全人教育の礎をつくりました。

これからの医学の道において、国民から期待されている皆さんの使命は、優れた臨床能力を持つとともに、研究を通じて医学・医療の進歩に貢献できる指導的な医師となることです。皆さんには、このような国民から負託された大きな使命があることを深く心に刻んでください。世界最高レベルにある日本の現在の医療は、時代を超えて脈々とこの使命を果たしてきた多くの先達、そして本学卒業生によって築かれてきたものです。皆さんはこれからも多くの先輩に出会い、指導を受け、そして試行錯誤を繰り返しながら、立派な医師を目指してください。

医学・医療の新しい知識・技術をたゆまなく取り入れていくことが、優れ

た医師や研究者になるためには不可欠ですが、さらには適確な判断力と批判力が必要となります。この批判力を養うためには、実際に研究の場に身を置くことがきわめて重要です。研究者を目指している方はもちろんですが、医療の第一線で医師として活躍したいと考えている方も、大学院博士課程に進学し、「医学者」としての適確な批判力を涵養して欲しいと思います。

大きな夢と高い理想を持ち、自らの資質と能力を最大限に発揮することができる「全人」として、皆さんがそれぞれの医学・医療分野もしくはその他の分野で活躍されることを祈念して、私からの「卒業生に贈る言葉」といたします。

第101期生の卒業を祝って

北海道大学医学部同窓会会長 浅香 正博(48期)



医学部101期の皆さん、ご卒業誠にありがとうございます。北海道大学医学部同窓会は皆さんの卒業を心より歓迎いたします。医学部同窓会は北海道大学医学部の創設後約40年経過した1960年に発足し、現在7000名に近い数の会員から成り立っています。会員数が急速に増えたのは、2014年4月より、医学部入学時に同窓会員になっていただく制度が導入されてからです。君たち101

期生は北大医学部入学と同時に同窓会に入会してくれておりますので、同窓会はずで身近なものになっていると思います。入学してから、思いもかけなかった新型コロナウイルス感染症蔓延のため、医学部においても対面授業がオンライン授業に変更になり、臨床実習も十分なものではなく、皆さん方は大変なご苦労をされたと拝察しております。このような状況にも関わ

らず、無事に卒業されたことに心より祝意を表したいと思います。

君たちがこれから入っていく医療界は日進月歩の世界であります。したがって卒業してからもしっかりと学び続けることがきわめて重要といえます。人から感謝されることが実感できる医師という職業はやりがいのある仕事ですので、将来君たちが年を経て人生を振り返ったときに充実感を感じることができるようそれぞれがしっかりと人生設計を建てて前に進んで行っていただきたいと思ひます。

北海道大学医学部は2019年に創立100周年を迎えました。医学部同窓会の念願であった百年記念館も完成し、様々

な展示物から北大医学部の歴史に触れることができるようになりました。101期生の皆さんは、北大医学部100周年に符合した素晴らしい卒業期にあたっております。そのため、周囲からも期待に満ちた眼で見られることは必須と思われまますので、それに応えられるような活躍を望んでおります。

北海道大学医学部同窓会は、卒業された101期の皆さんに対し、同窓会をあげてできる限りの支援をいたしたいと考えております。なお同窓会の活動はすべて同窓会員から集めた同窓会費で賄われております。毎年の入金を忘れないようくれぐれもよろしくお願いいたします。

第101期代表挨拶

今田 雄太郎(101期)



この度、第101期生102名が北海道大学医学部同窓会の一員となりました。僭越ながら、102名を代表し、ご挨拶申し上げます。これから医師としての道を歩み始める私たちを、伝統ある同窓会に温かく迎えていただいたことにより感謝申し上げます。

私たちの医学専門課程は、新型コロナウイルスのパンデミックとともに始まりました。これまでにない困難な状況の中、オンライン授業の導入など、

従来とは異なる学習環境のもとで学び続けることを余儀なくされました。しかしながら、このような状況であったからこそ、臨床実習ではじめて医療従事者の方々が命を守るために最前線で尽力される姿を目の当たりにし、医師としての責任の重さとその役割の尊さを改めて認識しました。また、患者さんと直接向き合うことが難しい時期を経験したからこそ、実習で初めて患者さんの言葉に触れたとき、その温もり

や重みをより深く感じました。この経験を通じ、患者さんに誠実に向き合い、寄り添うことのできる医師になりたいと、決意を新たにしました。

未曾有の危機を経験した私たちでしたが、先生方の厳しくも温かいご指導のもと、仲間と切磋琢磨しながら学んできた日々は、かけがえのない財産です。今、こうして卒業を迎え、同窓会の一員として新たな一步を踏み出せることに、改めて喜びと責任を感じております。

春からそれぞれの道を歩む私たちですが、医学は日進月歩であり、生涯にわたって学び続けることが求められます。そのような中で、同窓会は、卒業後も私たちを繋いでくれる大切な場と

なることと思ひます。今後は同窓生としての誇りを胸に、本学で培ったフロンティア精神のもと、これからの医学・医療を担う一員として、知識や技術の研鑽、研究に励み、社会に貢献できるよう努めてまいります。そして、いずれは私たち自身も、次代の医学・医療を担う後輩たちを支える存在となれるよう精進いたします。諸先生方にはこれからも様々な場面でお世話になることと存じますが、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、北海道大学医学部同窓会のさらなる発展と諸先生方の益々のご活躍を祈念して入会のご挨拶とさせていただきます。

第101期生名簿(102名)

※()は勤務先等(予定)

Table with 5 columns of names and their affiliations for the 101st cohort.

※勤務先等(予定)は本人から了承を得た場合のみ掲載しています。

令和6年度「同窓会会長賞」報告

本賞は、次の一に該当する医学部医学科を卒業する学生を顕彰することを目的に、平成27年度に創設されました。

- (1) 学業成績に対する表彰
(2) 研究活動に対する表彰

- (3) 課外活動に対する表彰
(4) 社会貢献に対する表彰
(5) その他の活動等に対する表彰

その他前4号に準ずるもので、同窓会会長賞にふさわしいと認められる者

金子 雄司
鉢呂 広介

【授賞理由】在学中の学業成績が特に優秀で、かつ、人格に優れている。

受賞者は、毎年2月に医学部長から推薦された候補者について選考し、第10回目となる令和6年度は次の4名を受賞者として決定しました。

授賞式は3月25日(火)に同窓会長から表彰楯が贈呈されました。

- (1) 学業成績に対する表彰
今田 雄太郎

- (2) 研究活動に対する表彰
金田 侑大

【授賞理由】在学中に研究課題に対し熱心に取り組みその成果を海外の学術雑誌に複数発表して高い評価を得た。

第107期生代表ご挨拶

河内 駿平(107期)



この度第107期北海道大学医学部医学科に入学しました代表の河内駿平です。来年にも150周年を迎えるこの歴史ある大学で学べることを嬉しく思います。

ます。四季で移ろう木々の姿や大学構内に訪れる小動物たち、夕日に染まるポプラ並木、一面雪の降り積もる銀世界といった壮大な自然と融合した日本屈指の美しいキャンパスに魅力を感じました。

道ならではのウィンタースポーツを楽しむこともできます。そういった勉学以外の楽しみを満喫しながら、医学を学べたら最高だと思いませんか。

さて、大学は高校とは違うことばかりです。まだ大して授業を受けてはいませんが、パソコンの使用、履修登録など既に圧倒されています。それに加え高校に比べて主体的に選び取っていく場面が多く、時には困ってしまうこともあるでしょう。

え込まずにぜひ誰かに相談して、仲間頼ってほしいです。新入生2600名の中では4%と、とても狭いコミュニティだからこそ、お互いをよく知り助け合いましょう。

ストレートで卒業するであろう皆さんとは、6年後バラバラになってしまうことと思います。卒業後に各地で活躍する立派な医師となるために、北大にいる間は勉強だけでなく同期や先輩、部活、バイトにわたるまで人との関わりを大切に人間力を養い、共に立派な医師を目指しましょう!

令和7年4月 1年次入学者名簿(90名)

Table with 12 columns of names and their schools for the 1st year cohort in April 2025.

令和7年4月 2年次進級者名簿(10名) ※総合教育部から移行

Table with 10 columns of names and their schools for the 2nd year cohort in April 2025.

令和7年4月 2年次学士編入学者名簿(5名)

Table with 10 columns of names and their schools for the 2nd year cohort in April 2025.

教授退任のご挨拶



機能再生医学分野
形成外科学教室
教授
山本 有平
(60期)

平成17年4月、45歳での主任教授就任以降、皮膚軟部組織腫瘍の集学的治療、頭頸部・乳房に代表される身体各部位の再建、顔面神経麻痺の外科的治療、抗加齢医療としての整容・美容外科など、北大形成外科の診療、教育、研究において、明確なビジョンを掲げ、力強いリーダーシップに心掛けて、教室運営を執り行ってきました。その間、常に私の心に留めおいた各界のアスリート達の名言を記します。

・Talent wins games, but teamwork and intelligence win championship.
from Michael Jordan

・周りを見て、自分が突き抜けるには、どこの能力をどうプラスにするか？
適正な努力をちゃんとできる頭を持っている人が成功する。
自分の頑張る場所を見極める事が大事。

正しい場所で、正しい方向で、正しい時期に、十分な量をなされた努力は裏切らない。
ネガティブな言葉は、言われた人間には鎖の様に絡み付く。

from ダルビッシュ有

後輩を叱る時は、
ミスを責め、人格を責めない。他人と比較しない。
長時間責めない。必ず、後でフォローする。

from 平尾誠二

将来の形成外科学の発展には、しかるべき人材を、医育機関である大学教室のリーダーに据えることが、最重要課題であると捉えてきました。これま

で、私の在任中に、本教室から、筑波大学形成外科 関堂 充教授(2008年)、福島県立医科大学形成外科 小山明彦教授(2017年)、愛知医科大学形成外科 古

川洋志教授(2019年)、旭川医科大学形成外科 林 利彦教授(2021年)、計4名が誕生しました。誠に誇らしい事と存じます。

北海道大学教授の立場として、いまだ発展途上である形成外科領域において、道内を中心とした地域医療の質の向上に寄与し得たこと、多くの専門医、指導医、医学博士を育てあげ、輩出できたことに感謝申し上げます。それも、この20年間の大航海で出会った全ての方々のおかげであり、心から感謝を申し上げたいと思います。本当に有難うございました。これからの北海道大学医学部の益々の発展を心より祈念しております。



解剖学分野
解剖発生学教室
教授
渡辺 雅彦
(会員2)

退職にあたって

1992年2月1日、田邊達三医学部長から辞令を受取り、井上芳郎教授が主宰する北大医学部解剖学第1講座の助教授になった。31歳の時である。居住予定の公務員住宅を確認した後、再び仙台に戻って引っ越しの手筈を整えた。2月9日、5歳、4歳、0歳の子どもと家族5人でフェリーに乗り、仙台港から苦小牧港に向かった。出港時は順調だったが、

次第に冬型の気圧配置が強まり、海は大時化となった。船酔いが激しく、2ヶ月目に入ったばかりの長男にミルクすら与えることすら困難な状況になった。苦小牧港に近づくと、全道の高速道路が閉鎖になったとの館内放送が流れた。不安が頂点に達し、下船準備ですぐ前に並んでいた男性に事情を説明し、助力を求めた。すると、「自分も札幌に行くから、船から降りたらトラックについておいで」、と助け船を出してくれた。ホワイトアウトでトラックを見失いかげながらも、国道36号線を北上して札幌市内にたどり着き、トラックの運転手と別れた。しかし、災難はさらに続いた。2月10日は雪まつりで、市内の大

通りの至る所がバリケードで通行止めになっていた。何度もトライアンドエラーを繰り返した挙げ句、午後3時ようやく札幌駅前のホテルに辿り着き、昨晚からの飲まず食わずの状態から解放された。厳冬の2月に赴任したことによる困難な経験として、生涯忘れられない記憶になった。

赴任後は、時代に恵まれ、環境に恵まれ、人に恵まれた。まるで春から夏、夏から秋へと季節を巡るような充実した仕事人生を送ることができた。子どもたちも皆30歳代の社会人になって独立し、家内と2人の家族生活に戻った。子育てに構うことなく仕事に明け暮れた後ろめたさも、今は少し軽くなった。

退職後は、3つのことを中心に第二の人生を送る予定である。1つ目は、大学院時代から40年間作り続けてきた300種類以上の分子に対する抗体を、世界の研究者が使える供給体制を持続したい。2つ目は、篤志献体の会である北海道大学白菊会の会長として、今後とも北海道大学の解剖学教育に寄与したい。3つ目は、コロナ禍が始まった2020年に始めた家庭菜園を、今後たっぷりとする時間を使って自然に触れ、体を動かし、日々成長する野菜に感動し、家族や友人とともに味わいたい。

教授就任のご挨拶



北海道大学病院
感染制御部
教授
遠藤 知之
(70期)

この度、2025年4月1日付で北海道大学病院感染制御部の教授を拝命いたしました遠藤知之と申します。私はこれまで北海道大学病院内科の血液内科において診療・研究・教育に携わってまいりましたが、2013年より血液内科との兼任で感染制御部副部長として活動し、前部長の石黒信久先生のご指導のもと、感染対策の実践に取り組んでまいりま

した。昨今のCOVID-19の世界的流行を経て、感染対策の重要性があらためて認識されるなか、今年度より感染制御部に教授職が新設されました。初代教授としてこの重責を担うことを大変光栄に感じるとともに、その責任の大きさに身が引き締まる思いです。

私はこれまで血液内科の中でHIV感染症の診療にも携わり、感染症に関する正しい知識の普及や予防の重要性を痛感してまいりました。また、COVID-19のパンデミックを経験し、医療機関のみならず社会全体で迅速かつ適切に対応することが、医療現場の安全確保に不可欠であることを再認識しました。

こうした経験を活かし、新たな感染症にも柔軟に対応できる体制づくりに貢献していきたいと考えております。また、感染制御には診療科・看護部・薬剤部・検査部・事務部門など、多職種連携が不可欠です。これまでの臨床経験を活かし、チーム医療を基盤とした感染対策の推進に尽力してまいります。さらに、感染症専門医の育成も重要な使命と考えております。当院には感染症科がなく、感染症専門医が極めて少ないのが現状です。そのため、感染制御のみならず感染症全般に関する正しい知識を広め、様々な感染症に対応できる医療人材の育成にも力を注い

てまいります。

私は、北海道大学医学部で学び、医師となって31年となりますが、そのうち27年間を北海道大学病院で勤務してまいりました。自らが学び医師として育まれた当院において、新たな感染管理・感染症診療体制を築き、職員、患者、そして地域社会から信頼される組織の構築に尽力する所存です。最後になりますが、これまでご指導・ご支援を賜りました上司、同僚、後輩の皆様にご心より感謝申し上げます。また、同窓会の皆様におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



外科学分野
腎泌尿器外科学教室
教授
あべ 崇重
(71期)

令和7年1月1日付で北海道大学大学院医学研究院腎泌尿器外科学教室・教授を拝命いたしました。ここに謹んで新任の御挨拶を申し上げます。初代 辻一郎教授、第二代 小柳知彦教授、第

三代 野々村克也教授、第四代 篠原信雄教授によって引き継がれて来ました教室の伝統、また長年の諸先輩方のご努力により築かれた教室への信頼を第5代教授として引き継がせていただくことを大変光栄に感じております。

私の出身は愛知県で、平成7年に北海道大学医学部を卒業後、北海道大学医学部泌尿器科学講座に入局を致しました。当時教室を主宰しておられた小柳知彦教授に臨床医・泌尿器科医師とし

ての姿勢をご教授いただきました。患者さんを中心に考えた医療、臨床から生まれる疑問を基礎・臨床研究で解明していく姿勢、その結果を世界へ発信していく大切さなど、医師として生きていく上での基本を教えてくださいました。当時より北海道大学泌尿器科には、現在も脈々と引き継がれる小児泌尿器科、神経排尿整理、泌尿器腫瘍、腎移植血管外科の4つの大きな柱がありました。例えば先天性尿路奇形を有する小児患

者さんへ尿路変向術を施行後、腎臓移植を施行した症例など、グループの垣根を越えて知恵を絞り、総力戦で患者さんの治療にあたる先輩方の姿に大変感銘を受けたことを覚えております。

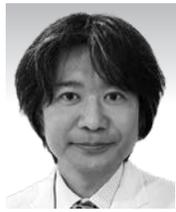
平成13年4月から平成17年3月の間は大学院に入学し、重症免疫不全マウスであるSCIDマウスを用いて膀胱癌の臨床検体からPatient-derived xenograftモデルを樹立する研究に従事しました。その後は北海道大学病院で勤務し腹腔鏡

手術・ロボット支援手術・開腹手術や、分子標的薬剤を中心とする新規薬物療法など泌尿器癌治療を中心に臨床経験を積ませて頂いております。

今後は、小児泌尿器科、神経排尿整理、泌尿器腫瘍、腎移植血管外科に関しては更なるレベルの向上を目指し、また新しい分野の開拓にも挑戦したいと考

えております。諸先輩、仲間、後輩への感謝を忘れず、若い先生方の力もお借りしながら、泌尿器科学の発展のために尽力させていただく覚悟です。今

後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



神経病態学分野
精神医学教室
教授
加藤 隆弘
(会員2)

この度、令和7年4月1日付で北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室教授に着任いたしました。当教室は初代教授の内村祐之先生から先々代の小山司先生、先代の久住一郎先生へと引き継がれた百年近くの歴史と伝統を有する日本屈指の大教室であり、そのバトンを引き継ぐという大きな責務を果たすべく精進してまいりたい所存です。私自身は北海道には縁もゆかりもなく、本土最南端佐多岬のある鹿児島大隅半島で生まれ育ち、約半

世紀を九州で過ごしてまいりました。九州大学医学部を卒業後、九大精神科に入局し、入局4年目に遠方より九大に着任された神庭重信教授のご指導のもとで対極と思われがちな薬物療法と精神療法の両方をリベラルに学ぶ機会に恵まれました。博士課程では門司晃先生（佐賀大学名誉教授）が立ち上げた分子細胞研究室で抗精神病薬のミクログリアを介した抗炎症作用を研究し、留学先のジョンズホプキンス大学では澤明先生からリバーストランスレシショナル研究手法を学びました。帰国後は若手PIとして、基礎研究者とともにヒト血液単球由来ミクログリア様細胞の開発や血液メタボローム解析による精神疾患バイオマーカー開発を進めてまいりました。他方、北山修先生（九

州大学名誉教授）をはじめとする精神分析家や集団精神療法家の先生方のご指導のもと、長年にわたる精神療法の訓練を続けてまいりました。世界保健機構（WHO）出身で世界精神医学会元会長のNorman Sartorius先生（ジュネーブ大学名誉教授）やアジア精神医学会創始者の新福尚隆先生（神戸大学名誉教授）のもとで、国際活動にも積極的に従事し、大学病院では国際的にも注目されている「ひきこもりHikikomori」に関する世界初の専門外来を立ち上げ、地域に根ざした支援体制の構築とともに国際共同研究を推進してまいりました。北海道と九州は日本の北端と南端と対極に位置しておりますが、これからの北海道での人生に期待を膨らませております。双方には、Cutting Edgeという言葉

の如く、最先端の文化社会が生まれやすい自然豊かで自由を重んじるという共通する風土があるからです。北大医学部には母校九大の先輩方が活躍されており、私自身も先輩方のように北海道と九州の有機的なマリアージュによる創造的な臨床と研究を推進できる精神医学教室を、教室員と共に築いてゆきたい所存です。北海道における地域医療にも貢献すべく精進いたします。具体的には、デジタル技術による遠隔システムを導入しながら生物・心理・社会モデルに基づく精神疾患・ひきこもり支援拠点を創出し、北大発の精神医療モデルを世界に発信したいと願っております。北大医学部同窓会の先生方には末永くご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和6年度フラテ研究奨励賞報告

選考委員会委員長
渡邊 雅彦(会員2)

令和6年度フラテ研究奨励賞には11件の応募があり、各委員が事前に応募者全員の研究業績を審査し、昨年12月6日に開催した選考委員会で、研究業績、研究計画の発展性等について多様な観

点から審査を行った結果、次の5名を受賞者として決定しました。授賞式は本年2月10日に医学部百年記念館で行い、浅香正博同窓会長（48期）から表彰楯及び研究奨励金が贈呈され

ました。本賞は、医学部同窓会の若手会員（応募の年度末で40歳未満）に対し、創造的研究の育成に資することを目的に創設されたものであります。平成15年度

の第1回から数えて第22回となる今回の受賞者を含めてこれまでに92名の方々を顕彰し、その多くが受賞後も輝かしい研究業績を挙げています。



北海道大学大学院
医学研究院
整形外科科学教室
鈴木 裕貴
(86期)

研究課題：血液脳脊髄関門の機能保護を介した中枢神経保護薬の開発

この度は伝統あるフラテ研究奨励賞に選出いただき、大変光栄に存じます。喜びと感謝の思いでいっぱいです。選考委員および北大医学部同窓会の諸先生方に深く御礼申し上げます。遡ること2010年、入学式で、「一緒に世界と戦おう」とのある教授の言葉が胸に深く刺さり、研究への興味と情熱を抱くようになりました。2016年より大学院博士課程で本新規プロジェクトに従事しました。本研究は、有効な治療法がない脊髄損傷に対し、血

液脳脊髄関門の機能保護という新たな視点で中枢神経保護薬の開発を目指したもので、大きな意味を持つ研究です。血液脳脊髄関門の主要構成細胞である脳血管内皮細胞を保護する薬剤の探索を目的にアッセイ系を確立し、既存薬1,600剤の中から候補薬を同定しました。さらに、脊髄損傷後の齧歯類に投与し効果とメカニズムを検証しました。現在、この薬剤について特許を取得し、企業と連携して臨床応用に進んでいます。本研究は、角家健先生をはじめ、岩

崎倫政教授、当教室のスタッフ、ラボメンバー、本学および他大学の共同研究者の皆様のご尽力とご協力により築き上げた壮大なプロジェクトです。この場を借りて、改めて皆様に心から感謝いたします。今後も本受賞を糧に、引き続き診療および研究に邁進し、北大から世界に向けて成果を発信できればと思っております。教室の枠を超えて、皆様のご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願いいたします。



北海道大学病院
血液内科
長谷川 祐太
(88期)

研究課題：肝臓GVHDにおける胆管幹細胞の動態と役割の解明並びに新規治療開発

この度はフラテ研究奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。ご選考いただきました諸先生方に心より御礼申し上げます。移植片対宿主病(GVHD)は同種造血幹細胞移植後の生命を脅かす可能性のある合併症であり、肝臓GVHDでは、胆管が主な標的となります。我々はこれまでGVHDが腸や皮膚の組織幹細胞を標的とすることを報告してきましたが、肝臓GVHDにおける胆管幹細胞(BDSC)の役割は明らかにされておられません

した。本研究ではBDSCから形成されるBECオルガノイドを用いることで、肝臓GVHDはTGF-βの上昇を介してBDSCを傷害し、胆管機能障害を重症化させていることが判明しました。またSMAD2/3阻害薬であるSB-431542がBDSCを保護し、GVHDによる胆管障害や黄疸を軽減することを示し、肝臓GVHDの新しい治療標的となりうることを報告しました。本研究は、アメリカ血液学会でOral、日本血液学会総会で

Plenaryに採択され発表いたしました。その後、データを追加し、2024年6月にBlood誌にacceptされました。大学院生時代からご指導いただきました豊嶋教授、橋本先生をはじめ、支えてくださった全ての先生方にこの場をお借りしてお礼申し上げます。この経験を通して今度は後輩の指導や、引き続き血液内科の診療に邁進していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。



北海道大学大学院
医学研究院
血液内科学教室
千葉 雅尋
(90期)

研究課題：成人T細胞性白血病/リンパ腫の免疫微小環境の探索と免疫療法の開発

この度は、大変栄誉あるフラテ研究奨励賞を授与していただき誠にありがとうございます。本章の選考に携わった先生方に深く御礼申し上げます。また、血液内科学教室の豊嶋崇徳教授、直接ご指導して頂いた中川雅夫先生に感謝を申し上げます。同じ実験グループの先輩である石尾崇先生がATLLの生存にとって必須の遺伝子を見出すという研究を行っておいりましたので、私はATLLの免疫微小環境、特にNK細胞との関わりとPD-L1発現機

序の解析の研究を行いました。whole-genome CRISPRライブラリーを用いたスクリーニングと解析を通じて、CD48という分子がATLL細胞のNK細胞の細胞傷害に対する感受性に関与することを明らかにしました。更にATLLにおけるPD-L1発現メカニズムにも注目し、NEDD化(neddylation)がPD-L1発現に重要であることを明らかにしました。また、新たに作製したPD-L1を標的としたCAR-T細胞とNEDD化阻害薬を組み合わせることで、ATLL細胞を

効果的に排除できることを示しました。これら2つのスクリーニング実験は現在岡山大学で勤務されている下埜城嗣先生が行っていただきました。上記の記載から明らかのように、素晴らしい先輩方や共同研究者の先生達のご尽力により、本研究を遂行できました。この場を借りて厚く御礼を申し上げます。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



北海道大学病院
救急科

つちだ たくみ
土田 拓見
(90期)

研究課題：新規敗血症モデルの開発に関する研究

この度は栄誉あるフラテ研究奨励賞を拝受し、身に余る光栄です。選考委員および北大医学部同窓会の諸先生方に深く御礼申し上げます。

私は大学院在籍中に敗血症免疫の研究をする予定でしたが、敗血症モデルマウスが持つ多くの問題点に気づき、自分で敗血症マウスの作成から始めることにしました。現在、標準的な敗血症モデルマウスはCLPモデルであり、マウスの盲腸を結紮・穿孔し、腸管穿孔による腹膜炎を誘発させるものです。

CLPモデルの作成は研究者間で開閉腹手術と結紮・穿孔に差異があり、マウスにも盲腸や便の個体差があります。CLPモデルでは腹膜炎作成のために手術侵襲や麻酔が必要で臨床と大きく異なり、純粋な敗血症の免疫機序の解明は困難と思われました。

本研究内容は、糞便懸濁液腹腔内注入法による敗血症モデルマウス(FSIモデル)の作成プロトコールとモデルの妥当性を示したものです。FSIモデルでは糞便懸濁液の濃度調整により、目的

の重症度の敗血症マウスを作成できるようになりました。死亡率が同程度のCLPとFSIの両モデルマウスを病理学的、生理学的、免疫学的、細菌学的に比較検討した結果、ともに敗血症として妥当な結果を示し、さらに、FSIモデルは個体間のばらつきが少ないことがわかりました。現在はこのFSIモデルを用いて様々な敗血症研究を行っております。

本研究を指導していただいた和田剛志教授、田中伸哉教授をはじめ、携わって頂いた皆様に心より感謝申し上げます。



北海道大学病院
皮膚科

まえだ たくや
前田 拓哉
(91期)

研究課題：乳房外Paget病におけるpatient-derived xenograftモデルの樹立

この度は伝統あるフラテ研究奨励賞を拝受し、大変光栄に存じます。選考委員及び北大医学部同窓会の諸先生方、事務局の皆様に深く御礼申し上げます。

本研究は私の大学院での研究テーマとして与えていただいたものです。進行期乳房外Paget病は現在保険適用薬がなく、予後不良であることが知られますが、その希少性から病態解明や新規治療法の開発のための前臨床モデルは存在せず、治療開発が進んでいません

でした。本研究では乳房外Paget病患者の腫瘍組織を免疫不全マウス皮下に移植することでpatient derived xenograftを樹立し、殺細胞性抗がん剤、分子標的薬によるin vivo治療実験を行うことでその有効性を検証しました。結果として本研究結果から有望な新規治療薬と考えられたエリブリンを使用して現在医師主導臨床試験が進行中です。今後も研究活動を継続し、本研究成果を通じて新たな治療法の開発や病態解明に

繋げられればと考えております。

最後になりますが、本研究の遂行にあたり直接ご指導いただきました柳輝希先生を始めとする共同研究者の皆様、並びに教室員の皆様に心より御礼申し上げます。この受賞を励みとしてより一層、臨床と研究に取り組んで参りたいと思います。今後ともご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

令和7年度フラテ研究奨励賞受賞候補者の募集!!

《フラテ賞》

- ・令和7年度フラテ研究奨励賞受賞候補者を次のとおり募集します。
- ・本賞は、医学部同窓会若手会員の創造的研究の育成に資することを目的に創設され、平成15年度の第1回から数えて昨年度までに92名の方々が受賞しています。
- ・第23回目の募集となる今年度も、多くの会員が奮って応募されることを願っております。

《授賞件数等》

- ・授賞件数は5名以内、受賞者には表彰楯及び研究奨励金20万円を贈呈します。

《応募資格、募集期間等》

- ・応募資格 令和7年度末(令和8年3月31日)現在、40歳未満である本会

員で会費を完納している次のいずれかに該当する者とします。

- ①北大医学部医学科を卒業した者
- ②前号以外の北大医学研究科または北大医学院を修了した者(応募する年度末までに修了見込みの者を含む)で、応募する年度の末日現在2年以上の同窓会員歴を有する者
- ③第1号以外の北大医学研究院の教員で、応募する年度の末日現在2年以上の同窓会員歴を有する者
- ④第1号以外の北大病院の教員または医員で、応募する年度の末日現在2年以上の同窓会員歴を有する者

・募集期間 令和7年10月1日から10月31日までの1ヵ月間です。

※申請書提出時において会費未納の方がおられますので、ご注意ください。

《応募書類等》

- ・応募書類(申請書、推薦書及び業績別刷り)各1部を取り纏めのうえPDFで提出し、他に1部は紙媒体でそれぞれ同窓会事務局にすること。
- ・応募書類を封筒に入れて、「フラテ研究奨励賞応募書類在中」と朱書き、郵送または持参すること。
 - ①郵送は必ず「簡易書留」としてください。10月31日までの消印のあるものは有効とします。
 - ②郵送した場合は直ちに、応募者氏名、郵送日を電子メールにより同窓会事務局へ連絡してください。
 - ③郵送(持参)先
〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目 北大医学部百年記念館 北海道大学医学部同窓会事務局
- ・申請書は同窓会ホームページからダウンロードしてください。北大医学

部同窓会で検索して、左上部のContents「フラテ研究奨励賞」から入ってください。

北大医学部同窓会

《選考結果の発表、授賞式等》

- ・受賞者が決定次第、北大医学部掲示板及び同窓会ホームページで発表するとともに、応募者全員に選考結果をお知らせします。
- ・授賞式は、令和8年2月に開催する同窓会総会で行う予定です。
- ・受賞者には、授賞式への出席及び同窓会新聞への寄稿をお願いしています。
- ・ご不明の点は、同窓会事務局にお問い合わせください。
電話 : 011-706-5007
E-mail : furate@med.hokudai.ac.jp

フラテ祭2025開催について

フラテ祭2025を、9月27日(土)に開催いたします。

フラテ祭は、平素からご支援をいただいております関係各位と医学部の親睦をさらに深め、医学部の現状を見ていただくことにより今後の抱負や課題を認識していただくための場として、2007年9月に第1回目を開催いたしました。

今年も第18回目として、北海道大学

ホームカミングデーと同日開催いたします。北大医学部の現状をご報告すると共に「特別講演」の他、昨年に引き続き「医学部・病院見学ツアー」を予定しております。なごやかな催しとなるよう準備を進めておりますので、教職員の皆様にも、ご協力およびご参加をお願いいたします。

日時：9月27日(土) 13:00～16:30(予定)
場所：北海道大学医学部/フラテホール
実施概要：

- 病院・医学部見学ツアー(先着60名限定)
- 医学部の現状・展望に関する講演
- 病院の現状・展望に関する講演
- 特別講演「遺伝医療からゲノム医療へ：その源流は北大にある。」
- 信州大学名誉教授・特任教授 福嶋 義光
- 現役医学部生による活動発表
- ※プログラムの内容は一部変更となる

ことがあります。

申し込みはこちらから



申込期限：7月11日(金)

医学部フラテ祭実行委員会事務局



令和6年度 医学研究院・大学院医学院・医学部医学科各賞受賞者

「特別賞」

国立精神・神経医療研究センター
理事長特任補佐



ごとう 雄一
後藤 雄一
(58期)

【社会的貢献名】 神経筋疾患とミトコンドリア異常の診断治療基盤構築

北大医学部を卒業して小児科学教室に入局し、4年の臨床研修を終えて大学に戻った時に、凶らずも希少疾患であるミトコンドリア病患者で異なる病型の3人を同時期に受け持ったことで、私の人生が変わりました。医局の皆様のご理解をいただき国立精神・神経センターの埜中征哉先生の研究室へ国内留学ができ、聴診器をピペットに持ち替えて研究生活が始まりました。当時はミトコンドリア病の病因としてミトコ

ンドリアDNA変異が報告され始めた時期で、日本をはじめ世界の研究者は先を争って病因を探索しておりました。私はミトコンドリアDNAを人類進化学に活用していた国立遺伝学研究所の寶来聰先生の研究室に、埜中研究室が収集していた多くのミトコンドリア病患者の骨格筋を持ち込み、脳卒中様症状を特徴とするMELASの病因を発見しNature誌に発表できました。研究を開始して2年余で成果が得られたのは、地道な神経筋疾患診断サービスを行いながら残余試料を研究に使えるようにバイオリソースとして確保していた埜中先

生とミトコンドリアDNAを扱っていた寶来先生とが結びついた共同研究ができたからです。大事なことは、その結びつきには繋ぐ「人」が必要なことです。

その後の30年以上の研究生活は、この成功体験を頼りに、治療法開発や難病研究班の活動、またバイオバンクの普及活動に関わってきました。疑問点を見つけ、その解決に向かってチャレンジすることは北大の精神そのものであり、自分も北大の一人として歩んできたことを今は強く感じています。今後、北大からどのような「人」が現れるかをととても楽しみにしています。

「優秀研究賞」

北海道大学大学院医学研究院
内科学分野 呼吸器内科学教室
教授



いまの 哲
今野 哲
(会員2)

【研究業績名】 慢性炎症性肺疾患の予後予測に寄与する多角的バイオマーカーの探索

このたびは、名誉あるこの賞をいただき、大変光栄に存じます。

2019年4月に現職を仰せつかりました。2020年2月よりCOVID-19パンデミックとなり、当科は多くの患者さんを診させていただきました。皆様がたの多大なるご協力をいただき、この難局を乗り越えることができました。この間には、COVID-19に関する多くの論文執筆の機会もいただき、その傍ら、私がこれまで長らく関わってきた慢性炎症性肺疾患の領域においても、研究のスピードが緩むことなく遂

行することができました。これも、直接この領域の研究に携わった方がたに加え、全ての領域で当科を支えてくださった医局、同門の皆様のおかげとっております。

気管支喘息、COPDを代表とする閉塞性肺疾患は、いずれも明確な診断基準がなく、更には、治療薬の反応性、臨床経過（増悪、呼吸機能悪化、生命予後）もきわめて多様です。この多様性のある疾患群に対しては、単に喘息、COPDと診断するのみではなく、治療反応性や臨床経過が異なる病型(phenotype)分類が重要です。しかし、単一の遺伝子・分子で、phenotypeが決まるような単純な病態ではなく、血清や呼気中のバイ

オマーカー、画像等を駆使した多角的な視点が要求されます。

近年は、AIを用い、CT画像より呼吸機能を予測する取り組み、電子呼吸機能測定機器で、自身の呼吸状態をモニタリングできるような機器開発にも取り組んでおります。

私にはあと10年ほど任期が残されており、引き続きこの領域における研究に取り組むと同時に、多くの専門領域が存在する呼吸器病学全般に目を向け、北海道の医療の充実と、世界への情報発信という2つの大きな目標に向け、努力してまいりたいと思っております。

「優秀論文賞」

北海道大学大学院医学研究院
神経病態学分野 神経内科学教室
准教授



やぐち ひろあき
矢口 裕章
(78期)

【論文題目】 Complete nanopore repeat sequencing of SCA27B (GAA- FGF14 ataxia) in Japanese (雑誌名: Journal of Neurology, Neurosurgery and Psychiatry)

この度は栄誉ある北海道大学医学部優秀論文賞を頂き、大変光栄に存じます。本研究は、当教室の主たる研究課題として佐々木秀直名誉教授から矢部一郎教授へと受け継がれている脊髄小脳変性症に関する研究です。2023年末に新たに報告されたFGF14遺伝子イントロンに存在するGAA繰り返し配列が異常伸長したことにより発症する脊髄

小脳失調症27B型について、日本人例を対象にその分子遺伝学的特徴を詳細に検討し報告致しました。

欧米からの報告ではGAA繰り返し配列が通常50回程度であるのが、250回以上に伸長すると疾患を発症することが報告されていましたが、本研究では、200回を超えると発症リスクが高まること、GAA繰り返し配列以外に病原性のないGCA繰り返し配列の伸長も見られること、健常者においても繰り返し部位C末端側に100~150回程度の病原性のないGAA繰り返し配列を認める場合があること、また日本人特有のハプロタイプがあることなどを報告致しました。

本研究は、当科の矢部一郎教授の指揮の下で、北大神経内科学教室で蓄積してきた臨床情報を伴う脊髄小脳変性症検体を用いて実施した研究です。また、ロングリードシーケンシングによる詳細な解析が必要であったため、横浜市立大学遺伝学 宮武聡子准教授および松本直通教授との共同研究体制をとりました。矢部一郎教授のご指導と、ご協力いただきました脊髄小脳変性症患者様に深く感謝し、本結果を新規治療法開発を含めた実臨床に還元すべく今後も精進して参りたいと存じます。

「優秀論文賞」

北海道大学大学院医学研究院
機能再生医学分野 整形外科科学教室
客員研究員



こいけ りょうあき
小池 良直
(86期)

【論文題目】 Population-specific putative causal variants shape quantitative traits (雑誌名: Nature Genetics)

このたび、本研究が優秀論文賞を受賞し、大変光栄に思います。本研究は、私が北海道大学医学院博士課程在籍中に理化学研究所 生命医科学研究センター ゲノム解析応用研究チームに出向し、研究チームの先生方や技師の皆様と共に取り組んだものです。ゲノム上の一塩基多型と形質との関連を精緻に解析することを目的とし、日本人特有の遺伝子型リファレンスパネルと統計的ファインマッピングを活用すること

で、新規の関連遺伝子座や疾患リスクに関わる変異を特定しました。今後これらの機能解析により、個別化医療への応用が期待されます。

本研究は主にコンピュータを用いたドライ研究です。研究当初は、私自身が解析手法に不慣れであり、試行錯誤の連続でした。しかし、研究チームの先生方や技術スタッフの皆様からの温かいご指導とサポートを受けながら、一つ一つ課題を克服し、解析を進めることができました。本研究を通じて、ビッグデータを用いた統計的手法を学ぶ機会を得られたことは、私にとって非常に貴重な経験となりました。また、

異なる分野の専門家と密に連携しながら研究を進めることの重要性を改めて実感しました。多くの方々と知恵を出し合いながら試行錯誤を重ねたこの研究が、Nature Geneticsという一流誌に掲載され、さらに今回のような評価をいただいたことは、大きな喜びです。

この受賞を励みに、今後も臨床と基礎の橋渡しとなる研究に邁進し、患者さんに還元できる知見を生み出していきたいと考えております。改めて、本研究に関わってくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。



「優秀論文賞」

北海道大学大学院医学研究院
機能再生医学分野 整形外科学教室
客員研究員



鈴木 智亮
(会員2)

【論文題名】GFR α 1 Promotes Axon Regeneration after Peripheral Nerve Injury by Functioning as a Ligand
(雑誌名: Advanced Science)

この度は優秀論文賞に選考いただき、大変光栄に存じます。受賞に際して、選考に関わっていただいた皆様へ感謝申し上げます。

当教室では、末梢神経損傷後の軸索再生において、シュワン細胞に着目し研究をすすめてまいりました。末梢神経損傷後、シュワン細胞は修復型シュ

ワン細胞に分化しますが、本研究では、修復型シュワン細胞が細胞表面で発現するGFR α 1が軸索再生因子として機能することを同定しました。

GFR α 1は、RETと共に機能するGDNFの受容体として知られていますが、GDNF-RET非依存的に、リガンドとして機能し、軸索上のNCAMとIntegrin α 7 β 1に結合して、軸索および機能を再生させることがわかりました。このことは、GFR α 1が受容体としてだけでなく、リガンドとしても機能する

こと、GFR α 1の応用により、末梢神経損傷に対する新規治療方法を開発できる可能性を示しています。

本研究を行うにあたり、整形外科教室岩崎倫政教授をはじめ、直接研究指導をいただいた角家健先生、研究手法の多くをご指導いただいた遠藤健先生、また共同研究者の皆様にご心より御礼申し上げます。今回の受賞を励みに、今後も研鑽を重ねて参る所存です。御指導御鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

ズームアップ③ 浜松医科大学学長就任



渡邊 裕司(59期)

北海道大学医学部59期の渡邊裕司と申します。本年4月より浜松医科大学学長を拝命いたしました。このたびは、北大医学部同窓会新聞の誌上でご挨拶の機会を賜り、大変光栄に存じます。関係者の皆様にご心より御礼申し上げます。

私は静岡県三島市出身で、県立菰山高校を卒業後、一浪を経て北海道大学医学部に入学しました。札幌オリンピックで見た白銀の世界に憧れ、現役時と浪人時ともに北大を受験し、入学後はニセコ五色温泉での新歓合宿の洗礼を受けてスキー部に入学しました。雪の無い静岡県人ですが、急斜面を怖がらないところが評価されアルペンに所属しました。スキーはそれまで数えるほどしか経験は無く、当然のことながら実績を残せず2年で退部しましたが、今でもスキー部の皆様とはスキー部同窓会の東京ウル会を通じて交流を続けていただいています。スキー部時代に体験した医学部の噴水前から宮ヶ丘のユースホステル、幌見峠、大倉山を経て大学に戻るランニング練習は、今も懐かしく思い出します。北大の学生時代には、今も何でも話せる友人達に

出会い、懐の深い教員の先生方にお世話になり、本当に楽しく充実した青春の日々を過ごすことができました。在学中は勉学に熱心とはとても言えませんが、教授の最終講義には出席していましたが、教授の最終講義には出席していません。当時内科学第一講座の村尾誠教授は最終講義で、「真面目」とは単に几帳面ということではなく、「真に」人としての面目を施すことだと論じられました。この言葉は、私の心に刻まれ、折に触れ思い出します。大学卒業後、北大を離れ地元静岡に戻り、浜松医科大学(浜松医大)の研修医として医師のスタートを切りましたが、周りに知る人がいない新たな環境の中で、北大卒業生として恥ずかしくないように頑張ろうという意識は、村尾先生の最終講義で教わった気がいたします。

浜松医大では循環器内科を専門とし、大学院修了後、デュッセルドルフ大学で血管内皮細胞のカルシウムシグナル調節と細胞骨格変化の研究に従事しました。留学中に恩師H.M. Piper教授(後年デュッセルドルフ大学学長に就任)とのご縁を得たことは、私にとって大きな財産です。帰国後も研究を継続し、

日本循環器学会YIA最優秀賞を受賞したことが、研究に真剣に取り組む励みとなりました。その後、浜松医大で全国でも数少ない臨床薬理学講座が開設されたのを機に助教授として異動し、基礎研究の成果を臨床へつなげる活動を展開しました。医師のミッションには診療とともに、研究を通じて新たな医療を開発することも含まれます。現在、私たちは既存の医薬品をいかに適切に患者さんに使うかに注力していますが、その多くは海外から輸入された医薬品であり、このままでは、消費・輸入型の医療にとどまります。この状況から、自らが医薬品や医療技術を開発し、それを世界に発信・輸出することで、世界の患者さんの医療に貢献し、副次的に利益も日本に還元される「開発・輸出型医療」への転換が求められています。臨床薬理学の立場で、このような医療者のマインドセットの転換を目指してきました。

個人的には、肺動脈性肺高血圧症治療薬としてシルデナフィル(バイアグラ)の適応拡大などドラッグリポジショニング研究に携わり、臨床研究や治験

の体制整備、レギュレーション策定に取り組んで来ました。2005年に臨床薬理学講座の教授を拝命し、2016年から3年間は国立国際医療研究センター臨床研究センター長を兼任しました。2018年からは浜松医大の理事・副学長を務め、この4月より学長を拝命いたしました。

学長として、大学就学人口の減少の中でいかに優秀な人材を確保するか、医師の需給均衡を迎える中で社会が求める医療人をいかに育成するか、国からの運営費交付金が限られる中でいかに安定した財務基盤を確保するか、病院経営を健全に維持しながら医師の働き方改革と研究時間の確保をどう両立させるか、といった課題を前にすることになります。さらに、浜松医大は静岡大学との法人統合・大学再編への対応も迫られています。いずれも困難な課題ではありますが、北海道大学医学部卒業生としての誇りを胸に、前向きに力を尽くす所存です。

今後とも、同窓生の皆様にはご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

ズームアップ③ 阿部 圭史 衆議院議員(87期) インタビュー

編集委員長 矢部 一郎(67期)、渡邊 雅彦(会員2)

矢部: 第50回衆議院選挙でのご当選おめでとうございます。本日は、このようなインタビューの機会をいただき、ありがとうございます。北大医学部関係者で国政に関わられたのは、第一内科初代教授の有馬英二先生、医専4期で郵政大臣も務められた箕輪登先生、17期で医学部長も務められた高桑榮松先生、76期の勝沼栄明先生に続き、5人目の快挙だと思います。北大医学部同窓会員のみなさまに阿部圭史先生のことを紹介させていただきたく、このインタビューを企画させていただきました。それではまず、医師を目指した理由や北大医学部での学生時代について教えてください。

阿部: 私はもともと外交官志望で文系を志望していました。しかし、2003年にSARS

が発生し、その際にカルロ・ウルバニというイタリア人医師が、WHOの職員として駐在していたベトナムで新しい感染症が発生していると世界に警鐘を鳴らしました。彼自身はSARSで亡くなりましたが、彼の行動が世界を救ったことを知り、「こういう道もあるのか」と興味を持ちました。外交官のような役割を担う医師という道があることにも魅力を感じ、医学部への入学を志しました。北大は修学旅行で訪れた際に気に入って、「ここに住んでみたい」と思い受験しました。大学入学後は、中学・高校と続けていたテニス部に入りましたが、年を重ねても続けられるものをしてみたいと志向し、テニス部を退部して茶道を始めました。茶道教室では、70代・80代のおばあちゃんたちに孫のように可愛

がってもらいました。今年1月には国会で、他の政党の友人たちとお茶会を開きました。在京の大使館関係者も招き、「茶の湯外交」の実践の場になりました。

矢部: 今日は、これから最終講義を控えている渡邊雅彦先生も同席されています。阿部先生は、学生時代に渡邊先生の教室にもよく行かれていたのですか?

渡邊: 2年生の授業が始まる際のガイダンス、オリエンテーションの後に、教室に遊びに来てくれました。

阿部: 渡邊先生には芋煮を作っていただきご馳走になったりして、本当によくいただきました。今思い返しても本当に良い思い出です。カラオケボックスで一緒にしたこともありましたが、た

だ研究にも誘われましたが、そちらは性に合わなかったですね(笑)。それでも、授業が終わると近くの24時間営業のスーパーで刺身を買って、「先生、飲みましょう!」と、よく遊びに伺っていました。本当に可愛がっていただきました。

矢部: 渡邊先生とはひとかたならぬお付き合いだったのですか(笑)。では、政治家を目指した理由を教えてください。

阿部: 明確に政治の重要性を実感したのは、東日本大震災のときです。私は2011年3月の北大医学部卒業です。震災はちょうどその卒業の月でした。実は私は卒業式には出席していません。私は宮城県生まれで、その年の2月末に親戚を訪ねてお小遣いをもらったりしていました。その後すぐに震災が発生し、

津波で多くの親戚が流され、連絡が取れなくなり、避難所を探し回っていました。その最中、「卒業式に出るのか」と聞かれましたが、「そんな場合じゃない」と思い、卒業式に出ず、そのまま大学から姿を消したようになってしまいました。学生時代に厚生労働省のセミナーにも参加していて行政の分野でもやるべきことは明確に理解していました。しかし震災後の状況もつぶさに観察し、政治というもっと広い視点で行動する必要性を強く感じるようになりました。

矢部:
政治の力で復興支援も含め社会全体を良くしようと思われたのですか？

阿部:
それもあります。被災地の状況を見ていますと、生業そのものが失われ、単なる支援ではなく、生活全般を考えなければならぬことを痛感しました。たとえ国家公務員として厚生労働省で仕事をしていたとしても、携われる分野は、多くは社会保障分野に限定されます。しかし、政治であれば農業・外交・防衛・教育など、多方面から国民生活を支えることができます。もちろん関わりが浅くなってしまふ部分もありますが、広い視点で物事を捉えることが重要だと強く思いました。

矢部:
実際に政治の道へ進む決意をされたのはいつ頃でしょうか？

阿部:
それは2019年にWHOに行ってからです。その前にジョージタウン大学の大学院で外交・安全保障を学び、その後、国連・WHOで大量破壊兵器対策や、紛争地帯でのオペレーション支援の実務に従事していました。その途中で2020年にコロナパンデミックが発生し、その対応を通じて、日本の外交政策や危機管理に課題を強く感じ、「自分でやろう」と決意しました。2021年にWHOを辞し、帰国して政治の道へ進もうと修行を開始しました。

渡辺:
「感染症の国家戦略 日本の安全保障と危機管理」を執筆されたのは、そのあたりですね。

阿部:
出版は2021年8月ですが、2020年初めか

ら厚生労働省や他の官庁、政治家、現場の医師などから感染症危機管理について問い合わせをいただくようになり、「わかりやすい解説を世にだそう」という思いから執筆しました。

矢部:
現在の政治活動について、主に取り組んでいることを教えてください。

阿部:
日本維新の会の厚生労働部会長として、厚生労働政策・社会保障政策の責任者を務めています。今国会で、自民党、公明党と日本維新の会で3党合意を行い、社会保障改革を重要なテーマとして政策を進めています。ここが一番難しく、何をやっても批判をされてしまうのですが、やらないわけにはいかない課題です。

外交関係も超党派で紛争の和平調停のシステムを研究しています。例えば、ウクライナ戦争でロシアとウクライナの間を調停しようとアメリカがやっていますが、日本の外交において、そういうことはこれまであまりなくて、それもしっかりやらなきゃいけないと思っています。

ただ、今のところ、日本の内政上の一番の課題は、社会保障だと思います。

矢部:
まさにこれまで歩んできた専門領域の視点も反映させて取り組むべき課題ですね。

阿部:
そうですね。やはり現場の医師の視点と、行政の視点と、あとは患者としての視点など、色々経験していますから、そのような多様な視点から、どういう政策が一番良いのか、すべてのみなさんに納得して貰うのは難しいのかも知れないですが、長期的な視点を踏まえて考えていかねばならないと思っています。

例えば、現役世代の社会保険料を払っている世代の負担を何とか軽減したいと思っています。国民負担率が今5割くらいですけど、そこを何とか軽減していきたい。社会保険料は労使折半になっており、人を雇う側の視点としてはそこをなるべく抑えたいと考える傾向にあるのではないのでしょうか。したがって、それを抑制することで雇用をしやすい、経済にとっても良い影響がおき

ますし、現役世代の負担も軽減されます。一方、医療の核を守ることは重要であり、高齢者の方々のことも考慮しつつ取り組んでいきたいと思っています。

矢部:
北大医学部同窓生や後輩へのメッセージをお願いします。

阿部:
北海道の地域医療を支えることも非常に重要ですが、旧帝大の一角として、そこに止まらず、日本国の医療をどうするのかということのを是非考えていただきたいです。厚労行政等、行政にも人材をどんどん出していただきたいと思っています。北海道大学のフィールドは北海道だけじゃないということを意識して欲しいです。

矢部:
インタビューの最後に、今後の抱負と座右の銘を教えてください。

阿部:
これまで行われてきた厚生労働行政にとらわれず、斬新な政策に取り組まな

いと、持続可能な社会保障制度を維持することができず、日本の社会は良くなれないと思っていますので、批判されることを恐れずにやっていきたいと思っています。

座右の銘は「眼(まなこ)は世界、心は祖国に」です。これは、私が危機管理政策を担当し、邦人保護の飛行機を作っていた際に、一緒にやっていた航空自衛隊のとある基地の副司令が言っていた言葉です。国際政治や国際社会を見据えるのですが、それだけではなく、心は祖国に、日本国の国益のため、日本国民のためにやるのだという強い意志が大切なのだという教えを頂きまして、それが座右の銘となっています。

矢部:
素晴らしいお言葉をありがとうございます。今後も日本のために頑張ってください。本日はありがとうございます。(2025年3月10日 北大医学部小会議室に於いて)



渡辺雅彦教授とのインタビュー風景
渡辺雅彦教授の最終講義前に行われたインタビュー。今後の国政への抱負のみならず、学生時代の思い出にまで話が咲いた。



インタビュー後に山田次郎医学研究院長を表敬訪問
向かって左から、矢部一郎編集委員長、山田次郎医学研究院長、阿部圭史先生、浅香正博同窓会長、田中伸哉副医学研究院長

フロンティア入試受験記

医学科2年 こばやし 小林 かなと 奏翔(第106期)



この度は、同窓会新聞に寄稿する貴重な機会をいただいたことに感謝いたします。私は、令和6年度のフロンティア入試で北海道大学医学部医学科に合格しました。フロンティア入試(旧AO入試・総合型選抜)とは、令和4年度に導入された新しい入試方式であり、書類審査、課題論文・面接、さらに共通テストの3つの要素を総合的に判断して合否が決定される制度ですが、この制度での初の合格をいただくことができました。今回は、私の受験体験を共有させ

ていただきます。もともと私は北大医学部医学科を志望していたのですが、推薦入試に対して否定的でした。一般入試は、自分の実力が点数という客観的な指標で評価されるため、納得しやすいと感じますが、推薦入試は小論文や面接など、評価基準が明確ではないことから、採点官の主観に左右される印象が強くなりました。そのため、推薦入試の対策に時間を割くよりも、一般入試の勉強に専念した方が合格の可能性は高いと考

えていました。そんな考えが変わるきっかけは、高校時代に在籍していた化学部の先輩方の姿でした。先輩方は、自身の研究や受験大学に対する熱意を訴え、東京大学や札幌医科大学の推薦入試に見事合格していきました。彼らの姿に感銘を受け、私も「自分の研究と北大医学部医学科入学に対する熱意」を伝え、これまでの自分の履歴の評価から大学に選んでもらって合格したいという思いが強く芽生え、フロンティア入試への挑戦を決意しました。

私が推薦入試を受ける上で最大の武器となったのは、誰にも負けないと自負できる「熱意」でした。高校時代、学校行事もそこそこに化学室に入り浸り、自分の研究に没頭しました。さらに、

科学系のコンペティションや学会にも積極的に参加し、自らの研究成果を発信する機会を増やしてきました。特に、共同研究者と日々研鑽を積んできた研究は高く評価され、いくつかの賞を受賞することができ、全国大会での発表の機会も得ることができました。こうした研究実績が、フロンティア入試において強力なアピールポイントにできました。しかし、フロンティア入試に合格することが出来た最大の要因は、推薦入試に対する強い熱意であったのではないかと思います。

実際に、私がこの入試に挑戦することには多くの壁がありました。特に、過去に北大医学部医学科のフロンティア入試で合格者がいなかったことから、

「本当に合格できるのか？」という疑問が当然のように持ち上がりました。さらに、情報がほとんどない状態であったため、私の父の不安は強く、なかなか理解を得ることができませんでした。それでも私は「絶対にこの入試で合格する」という意志を持ち続け、粘り強く説得を重ねました。その結果、最終的には父も私の熱意を理解し、全面的に協力してくれるようになりました。

こうして掴んだ合格ですが、振り返ってみると、その成功の背景には多くの人との素晴らしく貴重な「縁」の存在があったと感じています。高校に入学した当初、化学部の先輩と出会ったことをきっかけに科学研究にのめり込むようになったこと。その後、研究を進める中で出会った共同研究者、指導してくださった先生方、支えてくれた家

族や友人。これら全ての出会いが、今回の合格へとつながっていたのではないかと感じています。

もちろん、これらの縁は偶然の出来事だったかもしれません。しかし、その縁を無駄にしないよう、自ら主体的に行動し、日々の研鑽に努めてきたことが、最終的に私の強みとなり、フロンティア入試合格という結果につながったのだと思います。

さて、入学してからの1年間は、私にとって刺激的な日々でした。

かねてより興味があった「腫瘍病理学教室」に入入りさせていただき、最先端の研究に触れ、多くの知識を吸収する機会に恵まれています。さらに、ノーベル賞受賞者をはじめとする著名な先生方や、意欲的に学ぶ先輩方との出会いは、私にとって非常に貴重な経

験となっています。通常とは異なる方式で入学しましたが、大学の皆様にはあたたかく迎えていただき感謝しています。そして、これからも素晴らしい縁を作りながら、将来の夢である「臨床と研究を両立できる臨床志向型研究者」になるために、今後も全力で学び続けたいと考えています。

この1年間、多くの出会いや経験を通じて、私は「熱意を持ち続けることの大切さ」を改めて実感しました。これからの5年間の学部生活は、さらに多くの出会いと経験に満ちた濃密な時間になることでしょう。

学友や先生方との「縁」を大切に、常に「熱意」を持って挑戦を続けることで、大学の精神である「Frontier Spirit」を胸に刻みながら、人生を開拓し続けたいです。



理事会・評議員会報告

○日時 令和7年4月22日(火)
18:30 ~ 19:15

○場所 医学部百年記念館 大会議室

【理事会】

会長、副会長2名、理事8名、監事2名

【評議員会】

議長、副議長、評議員51名
(出席者5名、委任状提出46名)

会議に先立ち、本日の理事会・評議員会は、協議事項及び報告事項が同一であることから、合同で開催することが提案され、これが了承された。

会議に際して浅香会長から挨拶がありました。

○議事

【協議事項】

1. フラテ研究奨励賞選考委員会委員の選出について

5名の選考委員が了承されました。なお、任期は令和7、8年度の2年間です。

2. 令和6年度会計収支決算(案)について
大西理事から会計収支決算状況、特別会計預金状況及び各期別会費納入状況について説明後、審議の結果、これが了承された。

3. 令和6年度会計監査について
山崎監事から会計監査結果について説明後、審議の結果、これが了承された。

4. 令和7年度会計収支予算(案)について
大西理事から令和7年度会計予算(案)について説明の後、審議の結果、これが了承された。

5. 北海道大学校友会エルムの理事及び委員会委員について
校友会エルムの理事には大場雄介理事に、委員会委員には近祐次郎理事にお願いする旨説明の後、審議の結果、これが了承された。

6. その他

1) 同窓会会費滞納分の免除について
佐久間副会長から昨年11月の理事会・評議員会で評議員から要望があった会費滞納分の免除について、役員5名で検討結果、①会費滞納分の免除は行わない、②滞納者に対する今後の対応については、財政の改善に向けた検討会の議題として検討を行うとの報告があり、これが了承された。

2) 卒業生歓迎会の開催について
浅香会長から本年の「卒業生歓迎会」の参加者が52名であったが、卒業生の参加者が年々減少する傾向となっているため、畠山医学部長と相談した結果、卒業式当日に行われている学生主催の「謝恩会」と合同で開催する方法について検討することになった。

今後は実現に向けて、医学部医学

科及び主催学生と意見調整を行いその結果を次回の会議にお諮りするとの報告があり、これが了承された。

【報告事項】

1. 次期評議員、予備評議員について
令和6、7年度、各期毎の評議員及び予備評議員一部交代について報告があった。

2. 令和6年度庶務、事業報告について
笠原副会長から諸会議の開催状況、フラテ研究奨励賞、同窓会会長賞授与等について報告があった。

3. 令和6年度編集報告について
矢部理事から同窓会新聞及び同窓会名簿の発行状況等について報告があった。

告知板

<教授就任挨拶>



慶應義塾大学医学部
麻酔学教室
教授
やまだ たかしげ
山田 高成 (76期)

2024年4月より慶應義塾大学医学部麻酔学教室教授を拝命いたしました。2000年に北大を卒業し慶大麻酔学に入局、関東一円の関連病院出向やUCLA麻酔科への留学をばさみ大学を中心に勤務し

てまいりました。臨床では移植等の特殊手術麻酔、研究では生体モニタリング、特に脈波を扱っております。北大と慶應はフロンティア精神の理念で共通しており、それを胸に今後も精進してまいります。2025年6月からは日本麻酔科学会常務理事を務めます。皆様には引き続きご指導のほど、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



奈良県立医科大学
眼科学講座
教授
かせ さとる
加瀬 諭 (会員2)

令和7年4月1日に奈良県立医科大学眼科学講座の教授職に着任することになりました。私は鳥取大学医学部を卒業し、同大学の器官病理学大学院を修了しました。2003年より北海道大学眼科学教

室に入局し、大野重昭名誉教授、石田晋教授のご指導を賜りました。奈良県立医科大学は昭和20年に端を発する歴史のある、近畿圏の中核を担う県内唯一の大学病院です。着任後はまずは私の専門とする眼腫瘍、網膜硝子体を中心に希少がんを含めた診療体制の構築および臨床研究を進めていきたいと存じます。今後ともご指導、ご助言の程よろしくお願ひいたします。

<学内・院内人事異動>

<定年退職>

令和7年 3月31日 石黒 信久(60期) 感染制御部 准教授
山本 有平(60期) 形成外科学教室 教授

<任期満了>

令和7年 3月31日 深井 原(70期) 消化器外科学教室 I 特任講師
(藤女子大学 ウェルビーイング学部食環境
マネジメント学科 教授)

角家 健(71期) 運動器先端医学分野 特任准教授
(北海道医療センター)
福田 篤(85期) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 特任助教
(耳鼻咽喉科麻生病院)
東海林菊太郎(86期) 脳卒中・循環器病ICT医療連携研究部門および
脳神経外科 特任助教
(北海道医療センター 脳神経外科)
尾崎 倫孝(会員2) 法医学教室 特任准教授
渡邊 雅彦(会員2) 解剖発生学教室 特任教授(再雇用)

<学内・院内人事異動>

- <辞職> 令和7年 3月31日 大岡 智学(73期) 手術部 助教
早川 峰司(73期) 救急科 准教授(市立札幌病院)
田口 大志(76期) 放射線治療科 助教(北海道がんセンター)
野口 卓郎(79期) 腫瘍内科学教室 助教(信州大学医学部附属病院 講師)
安本 篤史(80期) 検査・輸血部 助教(医療法人社団円山公園内科)
吉川 仁人(87期) 放射線診断科 助教(函館中央病院)
前田 拓哉(91期) 皮膚科 助教(KKR札幌医療センター)
加瀬 諭(会員2) 眼科 講師(奈良県立医科大学 教授)
守谷 結美(会員2) 乳腺外科 助教(製鉄記念室蘭病院)
押野 智博(90期) 乳腺外科 助教
関崎 知紀(90期) 糖尿病・内分泌内科 特任助教
工藤 彰彦(91期) 脳神経内科 特任助教
大浦 峻介(92期) 神経生物学教室 特任助教
安井悠太郎(92期) 循環器内科学教室 助教
令和7年 6月 1日 岩崎 浩司(79期) 膝関節機能再建分野(産業創出分野)特任講師
遠藤 努(82期) 未来型遠隔医療開発・実践分野(寄附分野) 特任講師
<昇任>
令和7年 2月 1日 鈴木 正宣(81期) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師(医学研究院助教)
4月 1日 遠藤 知之(70期) 感染制御部 教授(病院講師)
浅野 賢道(75期) 消化器外科II 講師(同科助教)
金野 陽輔(76期) 産婦人科学教室 講師(病院助教)
堀田記世彦(76期) 腎泌尿器外科学教室 准教授(病院講師)
<所属換>
令和7年 4月 1日 杉木 宏司(74期) 臓器移植医療部 助教(心臓血管外科助教)
白鳥 聡一(80期) 検査・輸血部 助教(血液内科)
<配置換>
令和7年 4月 1日 川本 泰之(80期) 消化器内科学教室 助教(病院助教)
加藤 伸康(82期) 心臓血管外科 助教(医学研究院助教)
久田 諒(86期) リウマチ・腎臓内科 助教(医学研究院助教)
<定員換>
令和7年 4月 1日 渡邊 史郎(87期) 核医学診療科 助教(病院長付助教)
<その他>
令和7年 4月 1日 松本 譲(71期) 消化器外科学教室II 連携講座教員(客員准教授)
水戸 泰紀(67期) 神経内科学教室 連携講座教員(客員准教授)
(市立札幌病院 部長)
深井 原(70期) 消化器外科学教室I 招へい教員(客員教授)
(藤女子大学 ウェルビーイング学部
食環境マネジメント学科 教授)
本宮 真(78期) 整形外科学教室 非常勤講師(客員准教授)
(帯広厚生病院 整形外科 第2主任部長)
野口 卓郎(79期) がん遺伝子診断部 招へい教員
(信州大学医学部附属病院 講師)

<52期卒後50周年記念同期会>

52期では、コロナ騒動が明けた後の2023年10月に、しばらくぶりの同期会を開催しました。2024年9月にも同期会を開き、本年2025年にも開催します。

来年、2026年に、52期は卒後50周年を迎えます。2023年の同期会において、以後の同期会は9月最終土曜日に開催することが申し合わされました。50周年記念同期会は2026年9月26日(土)になると思っておりますが、日時、会場等の詳細が決定しましたら、同期の皆様にお知らせいたします。

52期同期会幹事 52期評議員 瀬谷司、櫻木範明

<北大医学部60期卒後41周年同期会>

日時：令和7年8月16日(土) 18:00から 場所：札幌パークホテル

<北大医学部61期 卒後40周年記念同期会のご案内>

2025年9月13日(土)

・プレ同期会15時~18時 医学部百年記念館(医学部正面北側)

・同期会19時 京王プラザホテル札幌

2025年9月14日(日)

・記念ゴルフ大会 9時 ツキサップゴルフクラブ(札幌市清田区有明)

なお、61期ではなくても、1979年の入学時に一緒だった先生がたにもご参加いただけますとありがたいです。涼しい9月の札幌での再会を楽しみましょう。

事務局からお知らせ

ドクター総合補償制度のご案内

同窓会では「ドクター総合補償制度」を創設し、現在、500名以上の会員が加入して、ご好評をいただいています。

本制度には「医師賠償責任保険(勤務医向け)」、「医療・がん保険」、「所得補償保険」があり、団体割引が適用さ

れるので割安な保険料で加入することができます。

「年度途中でも加入出来ます」ので、同窓会事務局または取扱代理店にお問い合わせください。

〈同窓会事務局〉

電話 : 011-706-5007

E-mail : furate@med.hokudai.ac.jp

〈取扱代理店〉

株式会社第一成和事務所

〒103-8214 東京都中央区日本橋

馬喰町1丁目12番3号 Daiwa日本橋

馬喰町ビル3階

フリーダイヤル: 0120-100-492

E-mail :

koumu@d-seiwa.co.jp



新刊書紹介



「旅の待合室II」

いのうえ しょうろく 井上 勝六(43期) 丸善プラネット ¥2,200

井上君は人も知る食文化研究の泰斗であり、医学に裏打ちされた「食」に関する著作は10を越える。

北大の学生時代、井上君はみんなから「六さん、六さん」と呼ばれ、そのひょうひょう、たんたんとした人柄を愛され、親しまれた。彼はヨット部に入れあげ、私はオーケストラで音楽に入れあげて、放課後は右と左に別れていたが、私的には随分親しくして貰った。初めてジンギスカンを食べたのも彼と一緒にだった。

さて大の旅行家である彼はこの度、「旅の待合室II」を上梓した。彼の旅行先はロンドンとかパリとか手垢の付いたところには全く興味がないうで、中近東とか東南アジアの、それも安全とは言い難い、いわゆる「ヤバイ」所ばかりに、しかも単独行が好きなのである。夫人やご家族の心配はどれほどのものだっただろう。

ところが、帰還して仕上げる紀行記はここに見る通り、ほとんど学術書に並ぶもので、そのしたたかな、好奇心、

知識欲はなまかななものではない。挿入された写真も、コンクールで何度も賞をとった腕前が光っている。又、その文章は堅牢で淀みがなく、これは名文家のものと言えよう。

なお、それぞれが我が道を歩んでこられた井上夫妻は親しい友人同士のようで、本書の表・裏表紙はひろ美夫人(日本画家)の見事な絵で飾られている。この味わい深いエッセイ集は、広く江湖の紙価を高からしめるに違いない。

(43期 川浪進)

次号に新刊書紹介をご希望の方は、右記の要領でお送りくださいますよう、お願いいたします。

【原稿締切日】 2025年6月20日(金)までにお送りください。

【字 数】 本文600字以内でお願いいたします。※本文の前に「タイトル」、著者名(または編集者・監修者名等)フリガナ(卒業期)、出版社名、金額(税込)を、最後に執筆者名および卒業期を明記してください。

【表 紙】 表紙の画像をメールに添付してお送りください。

【書評執筆者】 著者(編集者・訳者・監修者)以外の同窓会員(会員2も含む)に限ります。

【原稿送付先】 furate@med.hokudai.ac.jp

【掲 載 号】 新聞182号(9月号、9月上旬頃発送開始予定)

北海道医学会からお知らせ

○北海道医学会について

北海道医学会は北海道における医学と医療の進展を図るため、大正12年に発足した学術団体です。現在は、北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学の医師、医学研究者のほか本会の目的に賛同される方々を一般会員として、また道内の主要医療機関には特別会員として、本会に功績のあった方々には名誉会員としてご参加いただいています。

○主な活動内容

- ・機関誌「北海道医学雑誌」の発行（5月、11月：令和6年は第99巻）
- ・学術集会「市民公開シンポジウム」の開催（10月下旬：昭和42年から実施）
- ・若手研究者への「研究奨励賞」の授与（年3名以内に賞状及び副賞：昭和58年から実施）

※ 北海道医学雑誌は大正12年8月の創刊以来、戦中、戦後の一時期を除いて今日に至るまで継続して刊行され、北海道における医学総合雑誌として広く認知されています。

本誌は原著論文、学位論文以外にも、「研究会」「教室だより」などのセクションにおいて会員の様々な活動を紹介しています。

○会員の状況（令和6年11月30日現在）

- ・一般会員 556名（年会費 4,000円）
- ・学生会員 2名（年会費 1,000円）
- ・特別会員 73団体（年会費 25,000円）
- ・名誉会員 163名

○入会のご案内

本会に入会されていない同窓会員におかれましては、是非ご入会いただきますようご案内申し上げます。医療機関としてのご入会も歓迎します。

なお、会員には機関誌「北海道医学雑誌」を発行の都度お届けいたします。

入会方法は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

・投稿規定、掲載料等は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

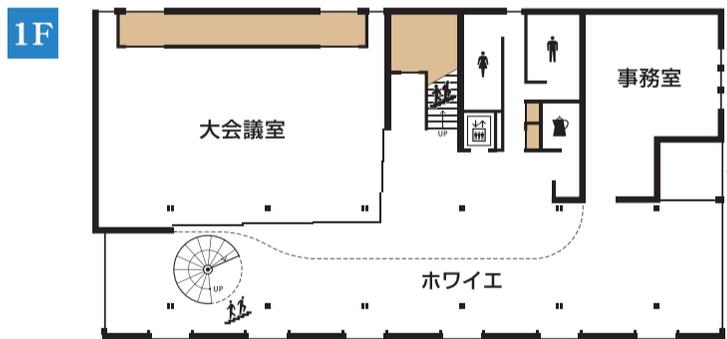
○お問い合わせ先

北海道医学会事務局
 (北海道大学医学部百年記念館内)
 電話 : 011-706-5007
 E-mail : digakkai@med.hokudai.ac.jp
<https://www.hokkaido-med-society.org/>



百年記念館の利用について

北海道大学医学部百年記念館は、原則北海道大学医学部及び関係部局が主催する授業及び行事、また、同窓生の交流の場としてご利用いただけます。なお、見学、利用に際して事前予約が必要のため、ご利用希望の際は庶務担当まで直接ご連絡願います。

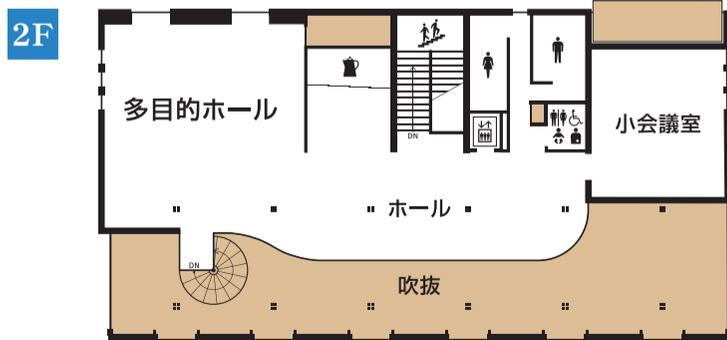


1F 大会議室

[収容人数：54名]

会議やセミナーに利用することを目的として設けました。椅子54脚と会議机27台の他、音響設備、映像設備を備えています。ホワイエの間は大きな引戸になっており、解放してより大きな空間として利用することができます。

- 【設備】
 椅子／会議用机／電動スクリーン／
 液晶プロジェクター（固定）／
 ワイヤレスマイク



2F 多目的ホール

[収容人数：42名]

会議よりもカジュアルでオープンな空間として、椅子42脚の他、大会議室同様、音響設備、映像設備を備えています。映像・音声メディアを活用したディスカッションや発表会に適しています。

- 【設備】
 椅子／電動スクリーン／
 液晶プロジェクター（固定）／
 ワイヤレスマイク

2F 小会議室

[収容人数：18名]

小規模な会議やセミナーに供することを目的として設けました。最大18名での会議を行います。木材を主とした建物全体の内装と趣を変え、落ち着いた雰囲気が集まることのできる空間になっています。

- 【設備】
 椅子／会議用机

お問い合わせ先

北海道大学医学系事務部総務課庶務担当
 TEL: 011-706-5004 FAX:011-717-5286
 E-mail: shomu@med.hokudai.ac.jp
 【受付時間】月曜日～金曜日(年末年始・祝日を除く)午前10時15分から午後5時まで

※同窓会事務局では予約および予約状況の確認は出来ません。

過年度会費が2年を超える 会費未納者と同窓会誌の発送について

2014年度より、過年度分未納会費が2年分(1万円)を超える会費未納者には、会員名簿および同窓会誌の送付を停止することになっております。

過年度分未納会費が2年を超える会員で、本年度の同窓会誌の送付を希望される方は、2025年8月31日までに未納会費の納付をお願いいたします。期日以降に納付されましても、印刷部数確定のため、今年度の会誌をお届けすることはいたしかねますので、ご了承ください。

【令和7年度同窓会誌について】

過年度分未納額が1万円を超えている方の納付期限は2025年8月31日までです。年度内(2026年3月31日まで)ではありませんので、ご注意ください。印刷経費等高騰のため、予備の印刷部数を減らし経費節約に努めておりますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

【過年度分の名簿および会誌について】

後日滞納分を納付いただきましても、在庫不足のためお送り出来ない場合がありますので、ご了承願います。

令和7年度北海道大学医学部同窓会誌 原稿募集について

今年度は、同窓会誌発刊の年に当たっており、11月下旬発送予定で編集作業を進めております。原稿等掲載をご希望の方は、次の要領でご投稿ください。よろしくお願いいたします。

◎「写真・絵画等」「文芸」

短歌、俳句、川柳、詩、書、絵画、版画、写真等(カラー掲載)、論説、随筆、紀行文など(本文3200字程度および写真等掲載可)
締切日：令和7年7月22日(火)午前中必着

※【書・絵画・版画・写真等】 光沢紙にカラーで掲載いたします。

※【随筆、紀行文などの文中に写真等を掲載されている場合】

いただいた原稿にあわせて白黒もしくはカラーで通常の用紙に印刷いたします。なお、写真等のみ光沢紙に掲載をご希望される場合は、本文は通常の用紙、写真等は「カラーページ」に分けて掲載することができます。ご希望の方は「カラーページ掲載希望」と書いてお送りください。

※原稿、写真等は可能でしたらメールでお送りください。編集作業をスムーズに進めるため、ご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

◎ 評議員不在の期および会員(2)「各期だより」について

・ 締切日：令和7年7月22日(火)午前中必着(原稿をいただけない場合は、氏名のみ掲載とさせていただきます)

・ 内容：ご自身の近況(文末にご氏名をご記入下さい)

・ 字数：400字程度(横書き)

<原稿送付先>

〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目 北海道大学医学部同窓会事務局
TEL&FAX: (011)706-5007 E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp

ご逝去者

新聞180号発行以降、ご連絡いただいた方を掲載しております。

御逝去年月日	氏名	期	御逝去年月日	氏名	期
2019年	黒川卓清	30	1月15日	岩城豪男	34
6月23日	大饗哲朗	89	1月16日	藤葉金三	40
2023年			1月21日	若葉茂夫	44
4月4日	山崎建	専5	1月24日	神島茂夫	34
2024年			1月31日	佐藤雅夫	専5
3月17日	衣川義隆	40	2月9日	福地保馬	41
8月14日	田中時治	専6旧	2月13日	高後亮	41
10月25日	宮内治繁	37	2月26日	柄木捷一郎	45
11月1日	有門卓二	56	2月28日	清水一由	50
11月17日	遠藤征子	36	3月1日	川内藤良	39
11月28日	清田昌英	45	3月5日	関寺恭朗	31
12月2日	横井健治	35	3月5日	和氣徳夫	48
12月17日	藤野和宏	25	3月11日	山本孝二	専5
12月22日	柴田博	41	3月22日	村井孝乙	29
12月23日	中村勝也	41	3月24日	川崎森郎	42
12月25日	高川亘	27	3月30日	後藤晶子	64
12月27日	渡辺學	36	4月12日	長谷直樹	49
2025年			4月14日	蠣崎廣信	38
1月2日	佐々木偉夫	29	4月17日	平良健裕	44
1月4日	市田篤郎	33	4月22日	林山正之	60
1月6日	打浪雄介	88	5月2日	古山正	38
1月8日	真鍋邦彦	48	5月9日	島田實	専7旧

同窓会新聞及び同封物の発送について

医学部同窓会では、同窓会新聞を年3回(5月号、9月号、1月号)発行しております。同窓会員の皆様へ発送する際、「登録情報変更届」、「コンビニ払込票」などを同封して会員情報の変更手続き及び同窓会費の払込みをお願いしております。

令和7年度からは同窓会新聞及び同封物の発送方法を次のとおり変更することになりましたので、よろしくお願いいたします。

【変更前】

5月号、9月号、1月号・・・同窓会新聞に「登録情報変更届」、「コンビニ払込票」を同封

【変更後】

5月号・・・同窓会新聞に「登録情報変更届」、「コンビニ払込票」を同封
9月号・1月号・・・同窓会新聞のみ発送

【留意事項】

・「登録情報変更届」は5月号に同封する届出用紙又はホームページ、メールで届出ください。よろしくお願いいたします。

・同窓会費をコンビニで払込されている会員の方は5月号に同封する「払込票」をお願いいたします。

なお、払込票の利用期日は翌年3月31日までとなっておりますので、ご注意ください。よろしくお願いいたします。

会員名簿の処分にお困りの方へ

会員名簿には個人情報掲載されていますので、ご不要になった名簿は適切な処分をお願いいたします。処分が困難な方は、同窓会事務局へ送ってください。なお、恐縮ですが送料は各自でご負担願います。

○送付先

〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目 北大医学部百年記念館内
北海道大学医学部同窓会事務局

【冊数が多い場合】日時指定の上、必ず「百年記念館」宛にしてください。

※月曜日～金曜日(祝日、年末年始を除く)：10時～16時まで

同窓会費納入のお願い

同窓会事業は会員の皆様から納入された会費によって運営されています。会費納入にご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

○会費納入は次のいずれかの方法によります

①口座振替、②コンビニ納入、③銀行振込 ※詳しくは同窓会新聞に同封される払込票をご覧ください。

一面の写真説明

記念樹「ユリノキ」

久村 正也(42期)

附属病院駐車場の一角にユリノキがそびえ立って居る。北米原産の落葉高木で葉が半纏に似ることからハンテン

ボクとも云われる。

この木は42期卒15周年の記念樹であるが、新病院建設の為、伐採撤去される事になった。記念植樹は昭和56年(1981)9月22日に42期生十数名が集いて行った。記事は同窓会誌昭和58年刊42期便りに載っている。

編集後記

この度、医学部長に田中伸哉先生、病院長に南須原康行先生が就任されました。偶然にもお二人は、長年に亘り同窓会新聞編集委員長、そして現在も編集委員を務められておられます。

社会全体がグローバル化の限界を呈している今、大学にもその波は押し寄せ、大学の在り方や医学・医療は大

きな曲がり角を迎えようとしています。このような時期に北大医学部は素晴らしい体制となりました。

お互い旧知の間柄であり、その卓越した実務能力と人柄は北大医学部の発展に寄与すると確信しております。北大医学部同窓会は、お二人の医学部の舵取りに大いに期待しております。

(55期 山科賢児)



印刷所 大日本印刷(株)

〒065-0007 札幌市東区北7条東11丁目1番1号
代表(011)750-2205